

第 182 号 発行日 平成 24 年 3 月 5 日

合格通信

今
月
の
名
言

言葉の一つ一つはかの黒の朱
のてんとう虫の如く、羽立てて鳴
る。微かに鳴る。
言葉の一つ一つは凡てが生ける
言霊である。生物である。
-北原 白秋-
(詩人)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせ
いただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

塾経営雑感



「あなたの好きにきなさい」といってあげる本当のタイミング

あなたのお子さんがとてもあなたのことが好きで、あなたを信頼している場合、あなたの提案
をすぐに受け入れるということも十分考えられます。それはとても好ましく、微笑ましい姿だと思
います。けれどもこの場合もやはり、これでお子様の進路が決まってしまうというわけではあり
ません。

今のところはまだ、受験勉強に追われている「今」という時間を、少しでも充実させるために、
仮に進路を決めたにすぎません。この先、さらに成長するにしたがって、自分に対する認識や理
解、そして世の中に対する認識や理解が進んでいきます。そして、また違う方向に向かうかもし
れません。

そしていずれ、「お母さん、僕は今まで を目指してやってきたけれども、それよりももっ
とやりたいことが見つかった。それよりももっと自分に合うと思うようなことが見つかった。だ
から、これからはそれを目指していきたいと思う。お母さんの希望どおりにいなくてごめん」
そのように言う時期が必ずあると思います。この時こそ、お子さんの成長を祝福し、
「あなたが決めたことだから、好きにするといいわ。あなたの決めた道を祝福するわ」と言って
あげる時なのです。

この話の最初に戻りますが、世の中のことも何もわからない子どもに対して、
「好きにさせたいと思っています。子どもの自主性に任せています」
というのではなく、最初はいっしょに考え、いっしょに歩んであげてください。

そしてお子様が、本当に自分の考えを働かせて、自分の道を見つけたということを見届けてか
ら、「あなたの好きにきなさい」

と言ってあげるのが本当の意味での「好きにさせる」「自主性に任せる」ということではない
でしょうか。